

第 1 回 久米島町立学校等適正規模・適正配置検討審議会 議事録

日時：令和 7 年9月3日（水） 14:00～16:00

場所：久米島博物館講堂

次第	配布資料
1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 教育長挨拶 4. 委員紹介 5. 役員選出 6. 諮問 7. 議事 (1)運営方法 (2)久米島町立学校及び幼稚園の現状 ・ 児童生徒数について ・ 適正規模・適正配置に関する基本的な考え方について (3)その他 8. 閉会	資料1:公立学校の適正規模・適正配置について 資料2:小規模校のメリット・デメリット 資料3:審議会スケジュール(案) 参考資料:久米島町立学校等適正規模・適正配置に関する参考資料 別添:公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引

1. 議事

【公立学校の適正規模・適正配置について】

(事務局より資料 1 について説明)

委員	人口、児童数の推移推計について、10 年前に行った推計結果と現在の児童数との差を比べることで推計の信憑性が増すと考えられる。確認してほしい。
事務局	承知した。第 2 回審議会で回答できるよう、確認する。
委員	教職員の人数は今回の議論とは別の話なのか。
事務局	生徒数が減少すると学級数が減り、教職員数もおのずと減っていく。今回の議論で必要だと思われる情報について、要望があれば準備するため教えていただきたい。
委員	学校数が減れば教職員数も減ると考える。生徒数と教職員数両方を含め、考えていく必要があるかと思う。
事務局	児童生徒数の規模が学習環境に影響するため、適正規模を一番に考え、次に教職員数であると考えている。一定規模の生徒数が居れば教職員数も学校規模に合わせ配置されるが、学校が統合されれば、教職員総数は減ると考えている。
委員	教員の人数は県の教育委員会で基準があり、児童生徒数で変動するため、そこは切り離して議論した方が良いと考える。
委員	資料 1 にある、学校適正規模・適正配置に関する基本的な考え方について、将来を見据えた視点とあるが、どれほど先の将来を見据えているのか知りたい。

事務局	児童生徒数の推計値としては 20 年から 30 年後を想定はしているが、短期的なスパンと長期的なスパン両方を見据える必要があると考える。特に現在の学習環境は改善したいと考える。
委員	どこまで先を見据えるかで検討事項が変わってくるかと思う。
会長	将来推計を踏まえると児童生徒数は減少していくと想定できるため、その状況に合わせ考えたいと思う。
事務局	複式学級の担任の先生へのヒアリングをしたいと考える。
委員	適正規模の審議会は過去にも行っているのか。
事務局	適正規模という名称では行っていないが、以前、「学校統廃合検討委員会」として中学校の統廃合を行っている。今回は文部科学省の適正規模・適正配置に沿って行っているため、名称が変更となっている。
委員	資料内に令和 5 年度の調査結果やアンケート結果の内容があるため、過去に同様の審議会が行われたのか気になった。
事務局	事務局内で適正規模・適正配置の必要性を感じ、事務局にて調査・情報収集を行っていた。諮問としては今回が初めてであり、参考資料は過去に取り組んだ調査内容となる。今後の審議会ではこれらの資料内容を整理した上で提示したいと考える。
委員	実際は何を目指しているのか。
事務局	手引きにあるように学習環境の改善を目的としている。学習環境の改善の手段として統合もあり得ると考えているが、目的の街区集環境の改善を達成するために必要な課題をひとつひとつクリアしていきたいと考えている。
会長	子どもの学習環境の充実を考えることを中心に議論していただきたい。

【小規模校のメリット・デメリットについて】

(事務局より資料 2 について説明)

委員意見なし。

【審議会スケジュール(案)について】

(事務局より資料 3 について説明)

事務局	審議会スケジュール(案)について、第 2 回目の審議会は 11 月頃と記載しているが、10 月中旬には開催したいと考えている。第 3 回については 2 月頃を予定しているが、第 2 回の審議内容によっては変更する可能性がある。また、住民説明会は第 2 回の審議内容を踏まえて行う予定である。
事務局	審議会の開催は基本的に午後を想定しているが、参加者のスケジュールによっては午前中もありうる。午前なら 10 時または 10 時半、午後であれば 13 時や 14 時を想定している。おおよそ 2 時間程度の範囲で行いたいと考える。また、現地参加が厳しい参加者については、オンライン参加も可能としたい。
委員	次回審議会のスケジュール回答はいつまでに提出すればよいか。
事務局	メールで改めて日程調整の連絡を行う。

【参考資料について】

(事務局より参考資料、別添について説明)

事務局	現在、久米島町の適正規模・適正配置に係る基礎資料を準備している。詳しい内容は精査したうえで、次回以降の審議会で提示したいと考える。
委員	認定こども園を目指すとするが、認定こども園と公立幼稚園の違いについて教えていただきたい。
会長	認定こども園は就労していない親でも預けることができ、小さいころから集団生活に慣れることができる。今回は幼保連携型の認定こども園を目指したいということだと思う。

(2)その他自由意見

委員	去年よりだいたい子どもの数が減少しており、少子化を感じている。今回こども園への移行という話があるため、久米島町の方向性を共有できればと思う。
委員	当審議会の方針を決めた後の動きはどうなるのか。
事務局	審議会で議論して決定した結果を教育委員会へ答申する予定である。他の事例をみると統合準備室を立ち上げて進めているところもあるため、できるだけ不安要素を取り除きながら進めていく必要がある。
委員	保護者の立場から考えると先が長いと感じた。今の子供たちがいる間に環境を改善していければと思う。
会長	すぐに進められない部分もあるため、本審議会は実際に動くための枠組みを作るイメージで取り組んでいただきたい。
委員	他の保護者にも情報を共有しながら考えたいと思う。
委員	幼稚園の職員から様々な声が上がっている。昨年は職員数が不足していたため1園としていたが、今年は2園の運用に戻った。職員にどちらがよかったか聞いたところメリット、デメリット両方あるとの声が上がった。委員に委嘱されたことを職員にも伝え、幼稚園や小学校職員たちの生の意見を当審議会でも伝えてもいいか。
事務局	職員に委員就任の件を伝えても構わない。今回の委員構成などは町のHP等にも公表し、周知する予定である。また、立場などに囚われず、個人の経験から来る意見なども自由に意見していただきたい。
委員	久米島高校は普通科が2クラスあるが、来年には1クラスになりそうである。また高校職員もそれに伴い減少すると思われる。児童数が今後半減することも考えると、学校規模の適正化について真剣に考える必要がある時期だと考えている。少人数学校で育った子は大人数の場に行くと委縮することも考えられるため、多様な人の中で過ごす方が、総合的に考えて良い教育環境と考える。
委員	減っていく児童生徒に対して、どう対応していくのが子どもたちにとって一番良いのかを現在行っている。久米島町総合計画との相互連携をしながら考えていきたいと思う。また、メリット、デメリットへの対応方法も共有しながら行いたい。
事務局	10年前の推計からどのように人口数が推移しているのか確認を行う。

2. 閉会